

# 松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉  
E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>  
松阪教育支援センター「鈴の森教室」「やまゆり教室」  
〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: [suzunomori@matsusaka.ed.jp](mailto:suzunomori@matsusaka.ed.jp)

## 「不易」と「流行」～1年間のお礼に代えて～

先日、教育委員会からの祝辞をお伝えするべく、中学校・小学校の卒業式に参列させていただきました。「なか4年空いての5年ぶりです」と喜ばれる他の来賓の方々の声からも、学校生活が日常を取り戻してきた、あるいは困難を越えて新たな活動が活発になってきたことを実感いたしました。そして式は、卒業生の声や立ち居振る舞いをはじめ、在校生や教職員の皆様が一体となって作りあげておられる、素晴らしく感動的なものでした。

中学校の式にてお伝えした祝辞のなかで「みなさんが生きるこれからの未来は、予測不可能なことが起こる時代だといわれています」という一節がありました。だからこそ「新しい価値を生み出し、社会の大きな変化に対応できる力を身に付けてください」ということをお願いしたものです。

当センターの大きな取組の1つに「新たな学びの創造事業」があります。未曾有のコロナ禍もあり、GIGAスクール構想、教育ICTの活用がこの3年間で急加速しました。本市においては、それより10年先んじて取り組んでいた1人1台端末の活用の実践研究を財産に、さらなる取組を重ね、全国的に見ても先進の実践を行うことができます。これはもちろん、学校現場でのご尽力があつてこそのものであります。激動の時代にあつて、「流行」、新しく変化を重ねていくものを取り入れていくことは絶対に必要です。端末にある各種機能やデジタル教材、集積された膨大なデータ、生成AI等、これらを効果的に活用していくための研究を、今後もたゆまず進めてまいります。

その一方で、卒業式の間でも垣間見ることができた、子ども一人ひとりを大切に、その思いや暮らし、保護者の願いまでもつかみ、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育む教育は「不易」、教育の本質であり不変のものであります。その本質を忘れず、そこに「流行」を絶えず取り入れていくとする姿勢もまた「不易」のものであるといえます。本年度も当センターの取組にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。教育の情報化をはじめ、教育課題研究、教育相談、教職員研修、不登校児童生徒への支援、外国人児童生徒教育等多岐にわたる取組ですが、皆様とともに一層の充実を図ってまいりたいと思います。

(御堂 栄治)

## 「いっぽ」と「ふたば」



市の発表によると、3月1日現在の松阪市の人口は157,067人(前月比100人減)で、そのうち外国人住民は5,149人(同32人増)となりました。少子高齢社会、人口減の松阪市においても、同じ市民として外国につながる方々の存在は重要なものとなっています。

その子どもたちの学びを保障し、支援していくための「初期適応支援教室いっぽ」は開設より17年、「就学前支援教室ふたば」は14年が経過しました。「いっぽ」では、前々回の修了式で、通算500人めの修了生を送り出しました。どの子どもも将来の夢を語り、これからの生活に目を輝かせていました。また「ふたば」では、15人の子どもたちが3月23日に修了を迎えました。小学校入学への期待に胸をふくらませています。

関係学校の先生方、松阪市国際交流協会の皆様をはじめ、たくさんの方々のご協力により本年度も活動することができました。感謝申し上げますとともに、今後ともご助力をお願いいたします。



# 教育課題研究 2023

教育現場における諸課題や今日的な教育課題の把握のもとにテーマを設定し、教育実践に役立てるべく、本年度も長期研修員2人による研究を、集録にまとめました。関係各所に発送しておりますので、ぜひご一読ください！

研究集録 第145集（長期研修員 永井宏卓）

「ICTを活用した授業についての一考察」～チャット機能を活用した活動を通して～  
学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」が求められるなか、対話が苦手な子にとって、授業におけるチャット機能活用の効果は…？ 他

研究集録 第146集（長期研修員 武田直也）

「家庭学習におけるデジタル・ドリルの学習効果について」  
一つの教科・単元において、家庭学習をすべてデジタル・ドリルに置き換えた。子どもたちの苦手克服、主体性、そして教職員の指導に活かせるか…？ 他

## ★教育関係書籍を購入しました。ご活用ください。

教育関係書籍、随時追加しております。当センターの事務所にお立ち寄りいただき、ぜひご活用ください。今年度購入した書籍のうち、一部(2022・2023年発行のもの)をご紹介します。

(※蔵書は、松阪市子ども支援研究センターホームページの「蔵書案内」より検索できます。)

書籍名	著者名等
「個別最適な学び」と協働的な学び」の一体的な充実を目指して	奈須 正裕
最新教育動向2024	教育の未来を研究する会
教育の方法と技術ver.2 IDとICTでつくる「主体的・対話的で深い学び」	稲垣 忠
学校の生成AI 実践ガイド	特定非営利活動法人みんなのコード
GIGAにとどまる学校 学校DXに進化する学校	平井 聡一郎
中学生・高校生でも盛り上がる！学級レク厳選120	春野 伸一
みんなが楽しい学校レクリエーション全点動画付き！（2） お楽しみ会&学校集会レク	北川 雄一
これからの英語授業にひと工夫	阿野 幸一・太田 洋
「思考ツール×ICT」で実現する探究的な学び	泰山 裕
動画・映像制作が創るクリエイティブな学び ～映像表現を活用した小中高「探究学習」	山崎 達聖（著）平井 聡一郎（監修）
小学校・中学校「撮って活用」授業ガイドブック ふだん使いの1人1台端末・カメラ機能の授業活用	D-project編集委員会・中川一史・佐藤幸江・前田康裕・小林祐紀

## ～お知らせ～

NEXT GIGA(R8年度の次期端末導入)、校務DXの推進に向け、令和6年度より「教育システム係」を新設し、これまで教育総務課が所管していた校務系のものも含め、教育ICTに係る業務を子ども支援研究センターに集約します。詳しくは新年度になってからお知らせします。